

# 国コミュ4年次 中山さん・吉川さん

## 独検2級に満点合格

2025年度冬期実施のドイツ語技能検定試験(独検)で、国際コミュニケーション学部4年次の中山歩実花さんと吉川海渡さんが2級に満点で合格。主催の公益財団法人ドイツ語文学振興会より成績優秀者第1位として表彰され、賞状が授与された。

独検は5級から1級まであり、2級は「日常生活に必要な会話や社会生活で出会う文章が理解できる」レベルとされている。二人は2年次前期に、異文化コミュニケーション学科のキャリアユームで、ライブツィヒ大学(独)に4カ月間留学



成績優秀者の賞状を手に、合格を喜ぶ中山さんと吉川さん

し、語学力に磨きをかけた。留学前、リスニングを苦手にしてきた中山さんは「帰国後はスムーズに話ができるようになった。さらに留学で得た経験や学びを深めること

で、語学力と異文化理解の両面で大きく成長することができた」と振り返る。

留学を経て「失敗を恐れず前向きに挑戦する姿勢も身についた」と話すのは吉川さん。3年次の夏にも再度ドイツに留学し、国際感覚を養った。「卒業後もドイツ語の研鑽を続け、グローバルに働きたい」と、将来を思い描いている。

語学習得や留学挑戦を目指す後輩たちに、中山さんは「留学中は机に向かうだけでなく、さまざまな体験にも時間を使ってほしい」とアドバイス。吉川さんは「外国語を話す機会を積極的に増やすことが大事。コミュニケーションの楽しさが語学習得のモチベーションになる」と語った。

# 剣道部とNZ代表が合同稽古



NZ代表選手(左)と交流する剣道部員

第1回アジア・オセアニア剣道選手権大会(5月30〜31日、足立区・東京武道館)でベスト8入りしたニュージーランド代表チームが、大会前に生田キャンパスで最終調整を行った。

来日したのは、コーチと選手ら8人。代表チームは生田研修館を拠点に、本学の剣道場を練習に使用。剣道部との合同稽古や壮行試合が行われた。



白熱した壮行試合。NZ代表選手(右)の鋭い攻撃を剣道部員が防ぐ

# 『専修大学史紀要』18号刊行

『専修大学史紀要』第18号が発刊された。本学大学史資料室編。今号は日高義博総長の特別講義録「法と人権」、1970年に法学部を卒業した木島博氏からの聞き取り調査をはじめ、近年発見された本学元総長であり、明治から昭和にかけて人権派弁護士として活躍した今村力三郎の1948〜49年の日記などが収録されている。



『大学史紀要』は希望者に配布する。送料510円分の切手を同封の上、氏名、送付先を明記し、〒101-8425 東京都千代田区神田保町3-8 専修大学大学史資料室に郵送。郵送された切手を使用して送付する。  
専修大学史資料室 TEL03・3265・5879

# シンポジウム「裁判員制度は何を変えるのか」 18歳裁判員時代の課題は



若者の裁判員制度参加について話す飯教授(左)と大学生ら

20年に向けての課題について意見を交換した。専修大学法社会学ゼミナールなど主催。

第1部では、若い世代の裁判員の選任や法教育について討論。昨年、20歳で裁判員を務めた法学部3年次生が自身の経験について語った。飯考行法学部教授との一問一答で「貴重な経験だった。審理は話しやすい雰囲気、人前で話すことが苦手な自分でも意見を出すことができた」と振り返った。2022年より、18歳から裁判員に選任されるようになったことについて、「若い人の視点が加わるので意義がある。ただ、判断の重さに戸惑うこともあるのでサポート

5月10日、神田キャンパスで開催された。18歳裁判員時代の法教育、誤判防止と再審、裁判員制度

裁判員制度の現状や課題について意見を交わすシンポジウム「裁判員制度は何を変えるのか」が

## 専修人の新しい本

裁判員制度は何を変えるのか 市民が支える司法と社会へ



飯考行ほか編著

市民が裁判員として裁判官と刑事重罪事件の裁判を担う裁判員制度は、2009年にはじま

トはあったほうがいい。若い世代も制度の理解を深めていかななくてはいけない」と語った。

再審制度見直しをテーマに、弁護士や裁判員経験者が意見を交わした。第3部では裁判員制度の現状と課題について、研究者や弁護士が問題提起。法学部の杉崎千春助教は、子育て世代の支援と司法参加のジレンマの課題を検討した。

り、2022年からは裁判員に選ばれる年齢が20歳から18歳以上へ下がった。裁判員を担う大学生も現れている。しかし、裁判員に選ばれる確率は低く(1万人に1人もいない)、判決を決める話し合い(評議)の中身は漏らしてはならないこともあり(守秘義務)、身近なものになってきているとはいえない。本書では、裁判員制度の歩みを振り返り、何を考えるのかを、18歳裁判員時代の法教育、誤判のおそれ、評議の秘密などのテーマで、裁判員を経験した市民、弁護士・元裁判官や研究者が、語り、記している。裁判員制度のポテンシャルを生かすためのヒントが詰まっています。(旬報社・税込1980円) 編著者(い・たかゆき) 法学部教授。法社会学。

# 応援ランチ



生田キャンパス(CABIN)では名物の鉄板でミックスマグロプレートを提供

## 学食人気メニュー 300円で提供

学生食堂のメニューを300円で提供する「応援ランチ」が5月15〜22日、生田・神田両キャンパスで実施された。前期は6月と7月にも実施、後期は10、11、12月に実施する予定。

応援ランチは、通常価格650円相当のメニューを、数量限定で本学学生・大学院生を対象に300円で提供する。連日、開始前から行列ができる人気ぶりだ。なかには「ほぼ毎日利用している。この値段でこのボリュームはありがたい」という学生も。



生田キャンパス「スカイテラス」の応援ランチ。この日は唐揚げ定食

応援ランチ実施期間外の授業期間(平日)には、数量限定で100円朝食(100円メニュー)を提供している。詳しくは大学ホームページやin Campus、学生生活課のSNSで。